

6-1 中間年次（H28）における成果指標の達成状況と今後の方向付け

成果指標—1

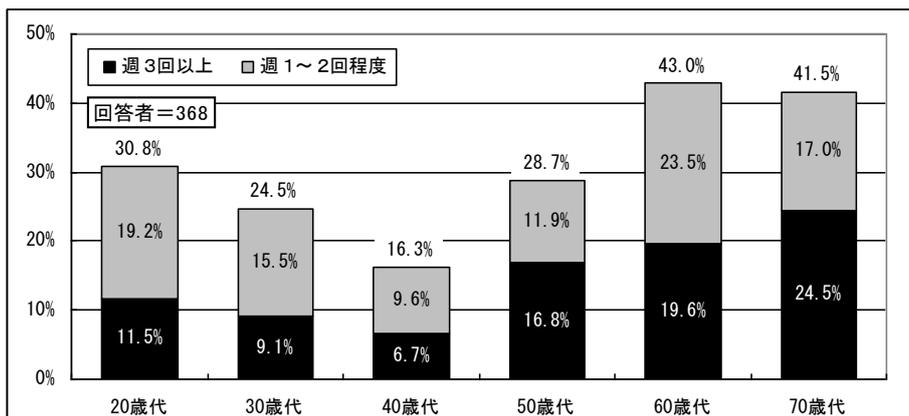
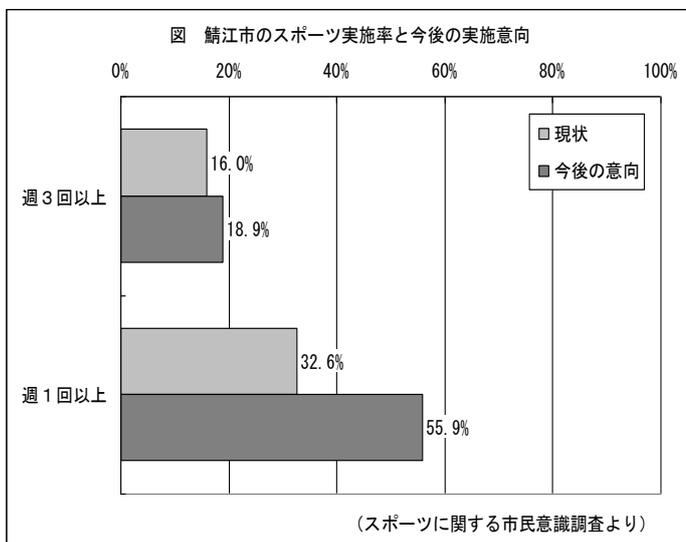
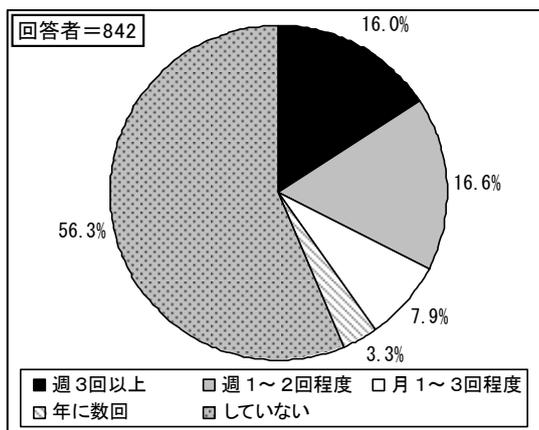
成人のスポーツ実施率（中間年次（H28）目標）

週1回以上：2人に1人（55%程度） 週3回以上：5人に1人（20%程度） **継続**

成人のスポーツ実施率（最終年次（H33）目標）

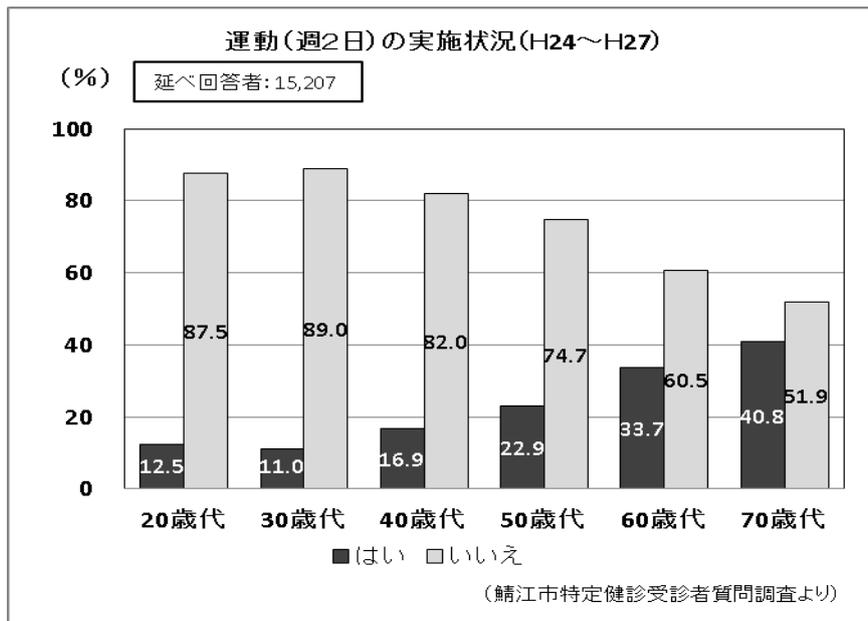
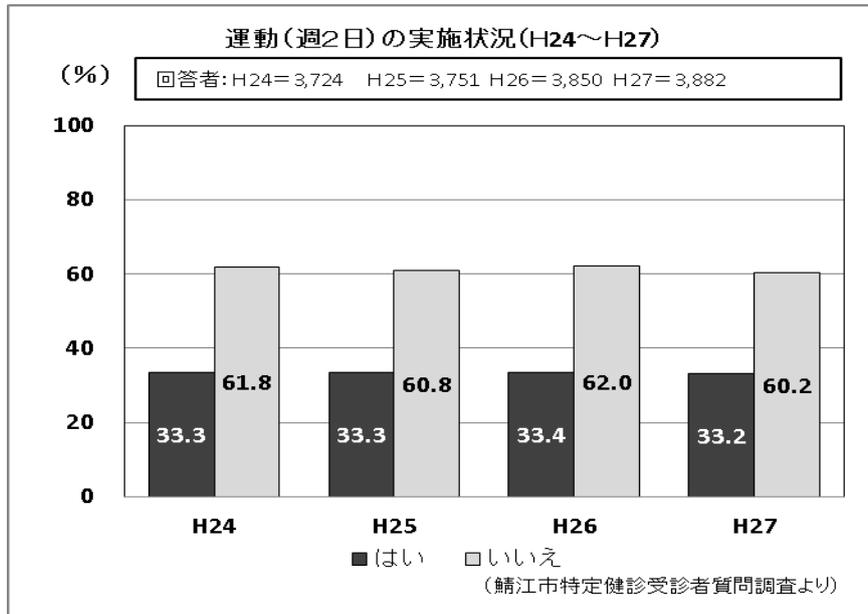
週1回以上：3人に2人（65%程度） 週3回以上：3人に1人（30%程度） **継続**

● スポーツや運動の実施状況（計画策定時）



● H24～H27 までの運動の実施状況

質問事項：1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している。



● 考察と方向付け

計画策定時は市民意識調査(2,000人無作為抽出、回答率42.6%)の結果をベースに、また、H24～H27までの運動の実施状況は国民健康保険加入の市内在住者を対象にした特定健診受診時の調査結果によるものであるため、単純比較することはできないが、計画策定時の「週1～2回以上」の実施率(32.6%)とH24～H27の「週2日・1年以上」の実施率(約33%)を勘案すれば、ほぼ横ばいで推移していると推測できる。

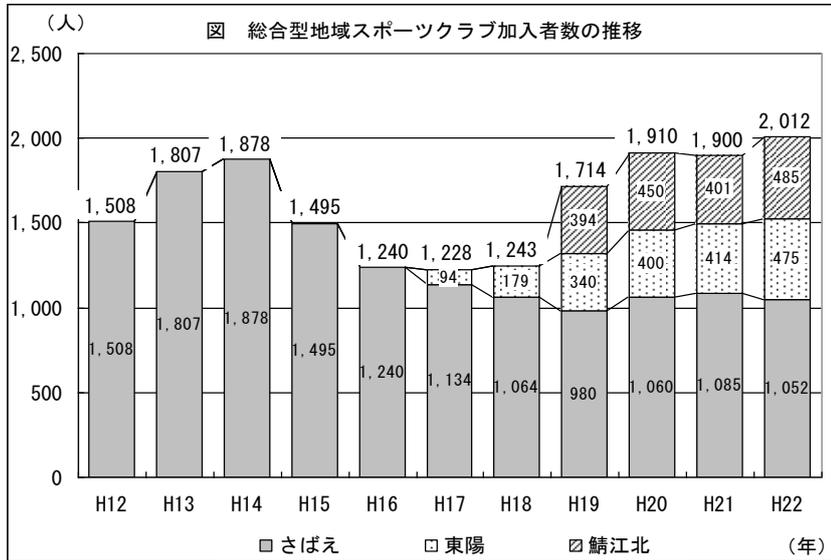
このことから、中間年次(H28)での目標達成は困難であることが予想されるが、最終年次(H33)の数値の変更は行わず、目標達成に向けて、誰もが気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりに、ハード、ソフトの両面から総合的な施策を強力に展開していかなければならない。

成果指標—2

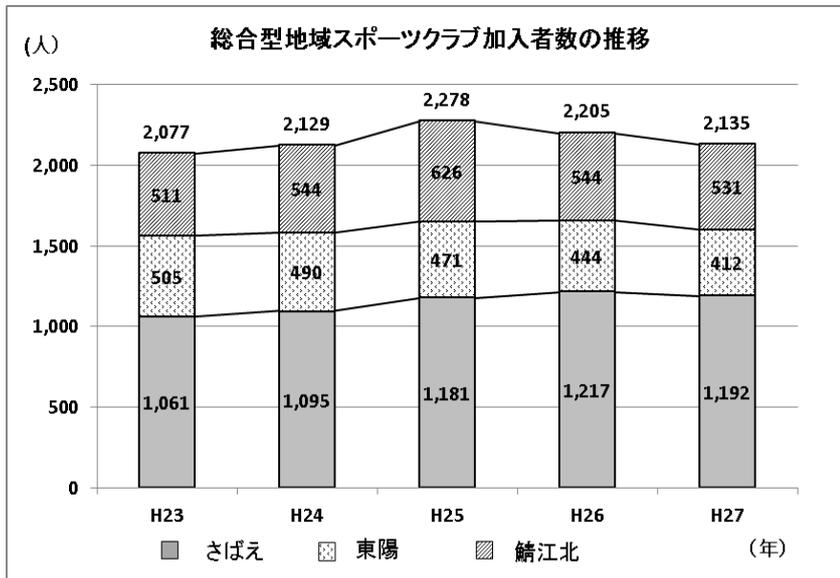
総合型地域スポーツクラブの加入者（中間年次（H28）目標） 2,300人 **継続**

● 総合型スポーツクラブの加入者数の推移

（計画策定時）



（H23～H27）



● 考察と方向付け

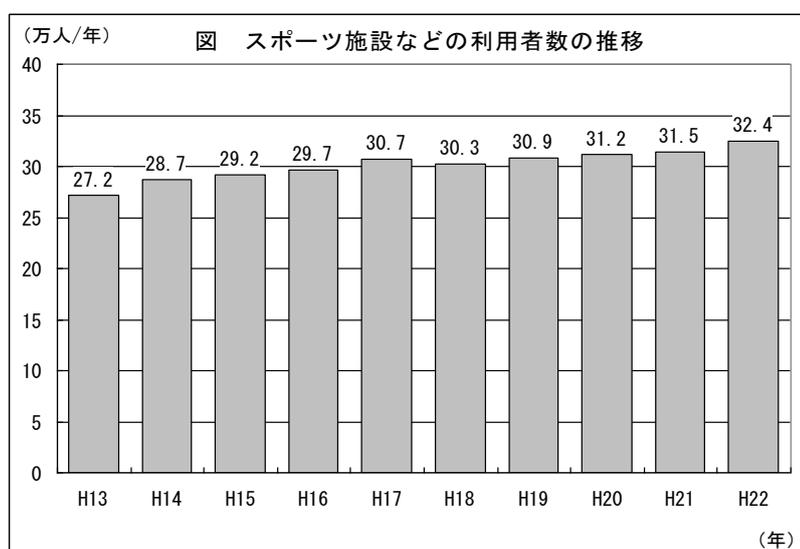
計画策定時は、市内中学校区を単位に3つの総合型スポーツクラブが立ち上がり、加入者数を順調に伸ばしてきたが、減少傾向にある児童・生徒数の影響を受け、平成25年度以降は加入者数が減少している。このため、中間年次（H28）の成果指標（2,300人）の達成はやや困難であるが、最終年次（H33）に向けて数値の変更は行わず、各クラブ間の交流・連携の強化、活動内容のPR・情報提供に努め、2,300人規模を確保する。

成果指標—3

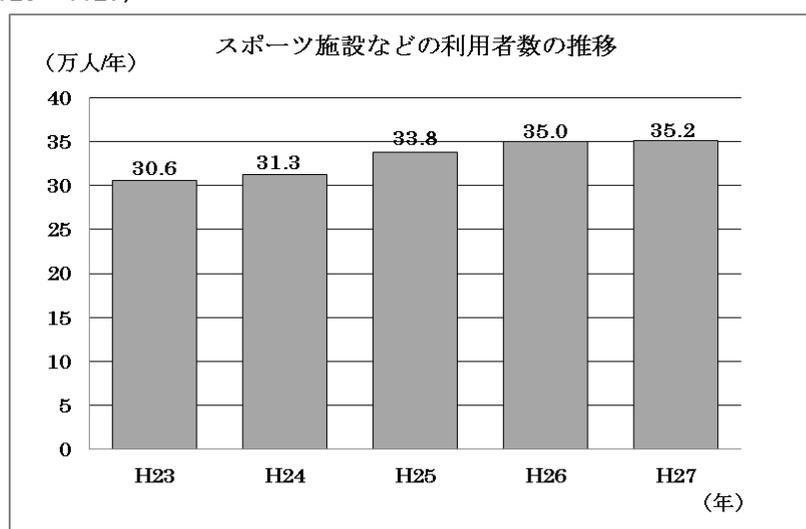
スポーツ施設等の年間利用者数（中間年次（H28）目標）	350,000人
	↓ 変更
	380,000人
市スポーツ施設等全体の年間利用者数（最終年次（H33）目標）	480,000人
	追加

● スポーツ施設などの利用者数の推移

（計画策定時）



（H23～H27）



● 考察と方向付け

計画策定後も年々利用者数が増加し、平成 26 年度には 350,000 人を突破したことから、施設環境面からは、子どもから大人までがいつでも気軽にスポーツに参加できる状況が保たれているといえる。

今後、新たなスポーツ施設整備の予定はなく、既存施設の老朽化も進むことから、これまでのような利用者数の増加は期待できないが、2018年に行われる福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会、2020年に開催される東京オリンピックなど大きなイベントを契機にネットワークを拡大し、市民のスポーツに対する関心・興味を高めることにより、最終年次（H33）の数値目標として380,000人を設定する。

また、この成果指標は、スポーツ課所管の施設利用者数のみを対象としたものであるが、生涯学習課が所管する地区体育館（いわゆる公民館併設体育館）もスポーツ施設に該当するし、年間で10～11万人規模の利用者数があることから、今後は市スポーツ施設等全体の年間利用者数もサブ数値目標として設定することとし、最終年次（H33）には利用者数480,000人を目標とする。